



## 知らないなんてもったいない！肺炎にならないぞSP

2017年01月25日放送



### 今回の番組について

いまや日本人の死因第3位の肺炎。

何となく自分は肺炎にならないと思ってるみなさんに、ぜひ知っておいていただきたい！最も怖い肺炎の原因は肺炎球菌ですが、なんと成人の10人に1人がすでに保菌しているという衝撃事実が判明。でも肺炎の発症を防いでくれるのが、ほとんど注目されることのない臓器「脾臓（ひそう）」です。実は、この臓器を元気にしてくれるのがワクチンなんです。しかも、ワクチンには大人用以外に子供用もありました。肺炎の最新対策をお伝えします。

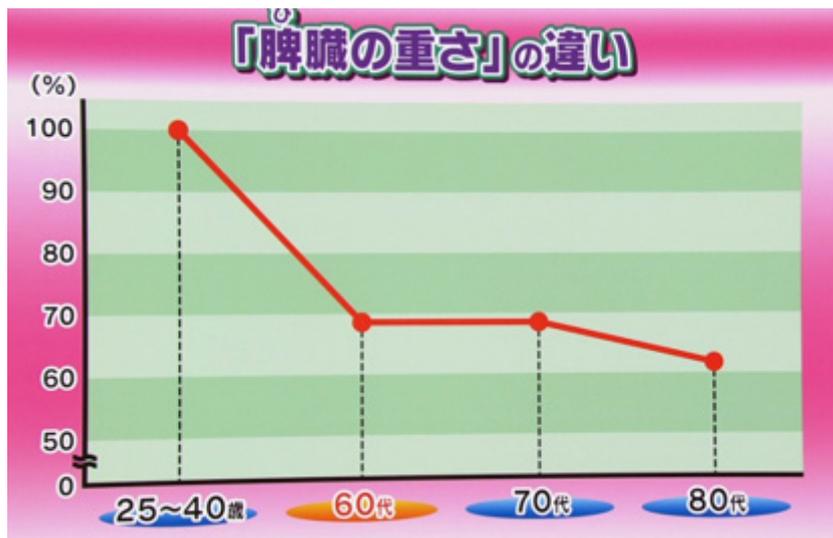


### 今回のお役立ち情報

肺炎球菌ワクチンは脾臓(ひそう)を“元気”にする

肺炎を起こす原因菌として、最も感染率が高く、致死率も高いのが「肺炎球菌」です。肺炎球菌は人の鼻の奥に住み着き、肺に落ちてきたときに肺炎を引き起こします。ただ、本来は体内に肺炎球菌が侵入しても、脾臓に存在する特殊な免疫細胞「マージナルゾーンB細胞」が抗体を出し、殺菌してくれるようになっています。

ところが高齢になると、若いときと比べて脾臓が縮小。マージナルゾーンB細胞の数も減ってしまうと考えられています。そのため、肺炎球菌に対するリスクが高まるんです。



そこで登場するのが「肺炎球菌ワクチン（PPSV23）」。このワクチンはマージナルゾーンB細胞に働きかけ、抗体が常に血液中に出ている状態にします。こうすることで、脾臓が小さくなった高齢者でも、肺炎球菌が侵入したらすぐに抗体が反応。免疫細胞が退治してくれるようになるんです。

#### 肺炎球菌ワクチンを受けるための補助制度がある



対象の年齢の方は、「肺炎球菌ワクチン（PPSV23）」を自治体の公費助

成を受けて接種することができます。補助制度の期間と、対象年齢は以下の通りです。

期 間：2014年10月～2019年3月の間

対象者：65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳 になる方

補助額は50～100%の場合が多いですが、自治体によって異なりますので、詳しくはお住まいの自治体の「予防接種」の窓口までお問い合わせください。

### 肺炎球菌ワクチンには2種類ある

肺炎球菌ワクチンには2つの種類があります。

1. 高齢者が定期接種になっている“大人用ワクチン”（PPSV23）
2. 赤ちゃんが定期接種になっている“子ども用ワクチン”（PCV13）

それぞれの違いは以下の通りです。

大人用ワクチン PPSV23	子ども用ワクチン(65歳以上も可) PCV13
効果 肺炎球菌による重症化を防ぐ	鼻の保菌もしなくなる
効果の持続 5年間	一生
費用 約8,000円	約10,000円
2019年3月で終了 今だけ! 定期接種(補助あり) 65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳の方	任意接種(補助なし)
対応する菌 23種類	13種類

65歳以上であれば、両方のワクチンを接種することもできます。その場合は1年、期間をあける必要があります。なお、ワクチンを希望される方は、かかりつけの医師とよく相談した上での接種をお願いします。

